

新春講演会 報告

小島 武雄

日時：平成30年1月13日(土)

午前10時～12時

場所：奈良市生涯学習センター3階学習室

演題：「自然からいのちのあり方を学ぶ」

聴講者：58名(会員50名 外部8名)

講師：菅井啓之先生

京都光華女子大学 こども教育学部教授

当日は厳しい寒さにも関わらず、皆さま次々と来ていただき会場はほぼ満席になりました。

鈴木会長より、「昨年の研修旅行で行った、高知



県立牧野植物園 記念館の牧野富太郎先生のお言葉(人間は、自然の一員なのですから自然と溶

け込んでこそ初めて生きている喜びを感じる)とありました。私は特に幼少期の自然へのふれあい体験が後々の人格形成に大変大事であると思います。本日、菅井先生にお話をさせていただくことで、私たちの公開イベントや校庭学習会などの活動を進化させることができると考えます」との挨拶。先生の経歴と著書の「いのちと出会う自然のさんぽ」「ものの見方を育む自然観察入門」「美しい心を育む自然観察」などの紹介がなされ、いよいよ講演が始まりました。

シニア大卒業生には、いつもの先生の清々しい笑顔で一気にお話に引き込まれます。資料は裏面いっぱい樹木イラストが描かれたものと手書きと思われる大きな文字の書かれたA3の用紙2枚。先生はパソコンを使わずに、壁面のホワイトボードにとっても大きな字で、自然体験→経験→体現と書かれました。さらに、質⇨深化=進化と書かれ、この文字は最後まで消されません。実は文字や記号をどんどん書いていき、その全ての文字が色々なお話の途中でその度に浮き上がるようにされています。よってだんだん書かれる文字が小さくなっていき、ついには書く場所までなくなる始

末。ホワイトボードには記号や、図やら、象形文字まで、丸や四角さらに赤に埋め尽くされました。先生は、私たちの周りのごく身近な事柄を取り上げ、そのことを根本まで掘り下げて分かり易くお話してくださり、その物の見方をまた新たにするものでした。どれもとても大事なお言葉でした。以下は聴かれた方でないと本当の意味はよく理解できないと思いますが、心にしみわたるお言葉を記入しました。

*同じ活動をしていてもその内に、中身の濃い質が問われる。*体験しても忘れていくので経験にしてそれを体現までもっていく。*自然を観察するのは命の営みを見ることで、見えない物を見る意識を持つ。*ドングリは生きている、中の虫の命、芽が出て、やがて森を作るのに。*日々の活動その奥にあるものを掴み進化させる、実感を持って。*個ではなく、全体を実感しその命の意味に目覚めて。*命をいただきます、感謝ではなく湧いてくる心が大切。*木⇨木⇨本質⇨根本(木の根が大事)見えないものを見て。*皮⇨肉⇨骨⇨髓(コツを掴む)何が本当か見極めて。*導く人の知識でなく、その人の自然に対する姿勢、生き方を見られている。*日、月、火、水、木、金、土、の木は他とどう関わるのか。*雑木林には自然の浄化作用、清らかに、自然の塊、そこに自分もいる。他に、幼稚園の子たちの散歩のあり方やその先生たち、刺されたダニから自然界全体へのバランス、難しいですが感化・薫習の学び、また「奈良・人と自然の会」は奈良・人=自然の会では?など、たいへん興味深い、盛りだくさんなお話がありましたが、1時間半で時間切れに。質疑応答の後、森副会長より先生へのお礼挨拶にて平成30年新春講演会は終了しました。爽やかな満足感と新たな覚醒を感じる、素晴らしい講演会となりました。担当幹事の皆さま方ありがとうございました。

